

平成28年度みやしろ健康福祉事業運営委員会
第4回高齢者福祉部会 会議録

- 日 時 平成29年3月28日(火) 午後1時～午後2時20分
- 場 所 宮代町役場 2階 202会議室
- 出席委員 11名
並木部会長、松尾委員、島村委員、今西委員、斉藤委員、久保委員、
佐藤委員、伊東委員、田口委員、伊藤委員、吉野委員
- 欠席委員 4名
長澤委員、新田委員、鈴木委員、村元委員
- 事務局 5名
健康介護課：岡村副課長、飯山主幹、横内主幹、福島主査、富田主査

■会議次第

- 1 開会 あいさつ 岡村副課長
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
 - 1) 介護予防・日常生活支援総合事業の概要について
 - 2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の実施状況について
- 4 その他
- 5 閉会

■会議概要

◇議題1：介護予防・日常生活支援総合事業の概要について

▼資料No.1「介護予防・日常生活支援総合事業」をもとに、事務局から説明をしました。

▼主な内容は

- ・総合事業については、「介護予防・生活支援サービス事業」と「一般介護予防事業」で構成され、このうち「介護予防・生活支援サービス事業」については、第2回及び第3回の会議において、ご意見をいただきながら、事業内容を構築したものである。一方、「一般介護予防事業」については、今まで介護予防の必要の程度によって、一次予防事業、二次予防事業として行っていた事業が一つのくくりとして変わることになったため、今までの各事業を整理して見直し等を行ったものである。今回、一般介護予防事業を含めて、全体像が固まったことから、報告をさせていただくものです。
- ・「介護予防・生活支援サービス事業」においては、訪問型サービスと通所型サービスのそれぞれにおいて、これまでと同様のサービスを行うものとして、介護予防訪問介護及び通所介護相当サービスと、事業の基準を緩和した新たなサービスAを創設したもので、訪問型サービスにおいては、掃除や洗濯、食事の用意などの生活支援を行うものと、通所型サービスでは、閉じこもり予防とし

て行うミニデイサービスを開始することとしている。現在、訪問型サービスAでは4事業所、通所型サービスAでは1事業所から指定申請が提出されている。

- ・一般介護予防事業においては、参加される方の状態に応じて3つの通所型の事業を用意するとともに、地域における介護予防の活動に携わる方を育てるための講座を2種類実施することとしている。また、既に地域で活動・運営をしているサロンなどの団体を支援するために、サロンへの助成制度を継続するとともに、メニューを増やした出前講座や健康運動指導士の派遣などによる支援を行っていくこととしている。

▼質疑・意見等は下記のとおり。

島村委員：今回の議題は報告ということでよいのですか。

事務局：介護予防・生活支援サービス事業の内容については、これまで高齢者福祉部会で検討をしていただいたことをまとめさせていただいたもので、介護予防・日常生活支援総合事業の要綱も整備しており、29年度からの当町の総合事業の全体像をお示しさせていただいたものであります。

吉野委員：基本チェックリストの結果により対象者となる一般介護予防事業がありますが、チェックリストはどのように実施するのですか。

事務局：28年度までは二次予防事業の対象となる方を把握する方法として65歳以上の方に対してチェックリストを郵送して、記入後返送していただいて判定を行い、介護予防教室への参加を促しておりましたが、チェックリストを行っても、事業の参加者は毎回、同じ人繰り返しの参加となってしまうことや、教室等の定員にも限りがあり、参加者が限定されてしまうといったことで、国でも見直しを行い、把握については、チェックリストの実施を必須とせず、市町村の状況に応じて、効果的な方法で介護予防が必要な方の把握を行うこととなりました。

町では、窓口相談や訪問活動などの通じての把握、特定検診の結果の活用や、パンフレット、広報等にチェックリストを掲載し、セルフチェックを行ってもらえるような工夫をしていくこととしています。

◇議題2：介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査の実施状況について

▼資料No.2「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査等調査結果」をもとに、事務局から説明をしました。

▼主な内容は

- ・みやしろ健康福祉プラン—高齢者編—（高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画）を策定するために、要介護者を含む高齢者の生活状況やサービスニーズ等を把握するための調査であり、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は65歳以上の方、「在宅介護実態調査」は65歳以上の要介護認定者、「介護予防・日常生活圏域ニーズ等調査」は65歳以上の要支援認定を受けた方にそ

れぞれ実施した調査です。

- ・「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は 1,000 件を対象とし、回答 843 件、回収率 84.3%。「在宅介護実態調査」は 236 件を対象とし、回答 166 件、回収率 70.3%。「介護予防・日常生活圏域ニーズ等調査」は 272 件を対象とし、回答 222 件、回収率 81.6%となっている。
- ・今回の調査については、国が回答の内容を分析できる集計ツールを用意することとされていたが、提供されたのが 3 月 17 日となったため、今回の資料については、各調査で回答されたものを単純集計した速報値となっており、今後、国が示した集計ツールをもとに分析等を行った結果については、29 年度に報告をする予定である。
- ・「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の関係では、「問 1（4）家族構成」において、「夫婦 2 人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 43.4%と最も多い。一方、「1 人暮らし」は 12.0%となっており、前回、3 年間前に実施した調査の 9.4%から 2.6 ポイント増加している。
- ・「問 1（6）普段の生活で介護・介助が必要か」については、「何らかの介護・介助は必要だが現在は受けていない」が 6.4%、「現在、何らかの介護・介助を受けている」が 1.5%と、介護・介助の必要性については、7.9%の結果となっている。その原因を聞いた「問 1（6）介護・介助が必要な主な原因」では、「高齢による衰弱」が 13.4%、「脳卒中」「リウマチ等の関節の病気」「糖尿病」がそれぞれ 11.9%と続いている。一方、今回要支援の方に対しても同様の調査を行っており、その結果としては、「高齢による衰弱」が 27%のほか、「脳卒中」「リウマチ等の関節の病気」「糖尿病」が上位となっている。こうしたことから、65 歳以上の方においても、同様の疾病を有している方は現在は介護認定を受けるまでには至ってはいないものの、加齢や状態の悪化によっては、介護認定を受ける潜在的な要因になるものと推測がされる。
- ・「問 4（11）趣味はありますか」、「（12）生きがいはありますか」の二つの設問については、趣味・生きがいを問う設問であり、それぞれの回答においては、「ある」との回答が 7 割を超える結果となっている。一方、「問 5（1）地域での活動」においては、社会参加の状況を問う設問であるが、①ボランティアのグループから⑥町内会・自治会への参加状況では、いずれの設問においても、「参加していない」が一番多く、ほぼ半数以上を占めており、問 4 での趣味・生きがいに関する設問と対比すると、趣味や生きがいは多くの方がいるものの、地域での活動として行っているというよりも、P19 の具体的な内容にあるように、「ゴルフ」や「読書」、「旅行」などの個人や仲間うちでの趣味などの傾向があるということがうかがえる。
- ・「問 7（2）あなたは現在どの程度幸せですか」については、今回の調査で、はじめて設定された質問ですが、幸福度が「8 点」が 20.8%と一番多く、「5 点」20.5%、「7 点」14.5%と続いている。2 番目に多い「5 点」については平均的な数値として回答が多いということがうかがえるが、「8 点」や「7 点」、「10 点」

などの高い点数で回答された方が多いという結果となっており、当町の高齢者は比較的、充実した生活であるということがうかがえる。

- ・「在宅介護実態調査」の関係では、回答をされた方の要介護度別では要介護2が31.3%、次いで要介護1が30.1%、要介護3が16.9%と続いておりまして、要介護5の方は7.2%と一番少なくなっている。この点については、今回の調査対象が在宅で生活している方を対象としていることから、介護度が重い方については、入院や施設入所されている傾向が高い状況にあることから、このような状況になった推測される。
- ・「問2 ご家族やご親族の方からの介護」については、「ほぼ毎日ある」が54.8%と一番多く、「ない」が19.3%となっている。なお、今回の結果は、単純集計のものであるため、例えば、「ほぼ毎日ある」とされている方が、どのような世帯類型の方なのか、あるいは、介護度ではどの程度の方なのか、といった集計や分析を行うことによって、介護の実態やニーズを把握していくことが必要となる。
- ・「問5 主な介護者の方の年齢」については、「60代」が最も多く、34.9%であり、次いで「70代」が22.2%、「50代」が20.6%と続いている。また、「80歳以上」においても12.7%となっており、高齢者による介護が多い状況がうかがえる。
- ・「問6 主な介護者が行っている介護の内容」としては、「掃除、洗濯、買い物等」が最も多く、76.2%となっており、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が74.6%、「食事の準備」が72.2%と続いており、生活援助が多い状況となっている。一方、介護をしている方に聞いたB票の「問5 介護者が不安に感じる介護」については、「入浴・洗身」が34.1%と最も多く、「夜間の排泄」が32.5%、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%と続いており、介護の種類の中で、労力や注意力を必要とする「入浴・洗身」や「排泄介助」、「付き添い介助」といった身体介助に対する不安が多いという状況がうかがえます。
- ・「問7 介護を主な理由として過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか」においては、「仕事を辞めた方はいない」との回答が最も多く、56.3%を占めており、次いで「辞めた」が8.7%、「転職した」が3.2%となっている。
- ・「問8 利用している介護保険サービス以外のサービスは」においては、「利用していない」が最も多く、次いで「紙おむつ等の介護用品支給」、「配食」と続いている。これに対して、「問9 在宅生活の継続に必要と感じるサービスは何か」においては、「紙おむつ等の介護用品支給」が最も多く、次いで「移送サービス」、「緊急時通報システム」、「配食」と続いており、寝たきりの状態にまでは至ってはいなくても、紙おむつ類の必要性がある高齢者が多い状況であることがうかがえる。

▼質疑・意見等はありませんでした。

◇次第 4 その他

▼事務局及び委員からの提案、要望等はありませんでした。